

## 令和4年度 第3回飛騨市総合政策審議会 議事録

- 【日 時】 令和4年12月20日（火） 13時00分～16時00分
- 【場 所】 飛騨市役所 西庁舎3階 大会議室
- 【出席委員】 18名中10名
- 【執行部等】 都竹市長 湯之下副市長 沖畑教育長 齋藤会計管理者 谷尻総務部長  
藤井市民福祉部長 横山環境水道部長 野村農林部長 畑上商工観光部長  
森基盤整備部長 中畑消防長 佐藤病院事務局長 野村教育委員会事務局長  
大庭河合振興事務所長 平田宮川振興事務所長 三井神岡振興事務所長  
上畑財政課長（17名）
- 【事務局】 森田企画部長 田中総合政策課長 土田課長補佐 井口主査 上手主任（5名）
- 【傍聴者】 4名
- 【会次第】 1. 開会  
2. 市長挨拶  
3. 会長挨拶  
4. 協議事項  
①令和4年度11月臨時議会で予算議決済みの施策について …… 資料①  
（飛騨市原油価格・物価高騰緊急対策 第3弾）  
②令和5年度予算 主要事業の概要（案）について …… 資料②  
③自由討議  
5. その他  
今後のスケジュールについて …… 資料③  
6. 閉会

### 【議事内容】

#### 1. 開会【森田企画部長】

令和4年度第3回飛騨市総合政策審議会を開催する。

本日は8名がご都合により欠席であるが、委員18名中過半数の出席により、飛騨市総合政策審議会設置条例第6条の規定により定足数に達していることを報告する。

今回は産業界の委員の出席が無く、全体として人数も少ないため、開催の是非も検討したが、産業界の方々については日頃より関係部署等において意見交換をさせていただいていることから今回開催させていただくこととした。ご了承のほどよろしく願います。

#### 2. 市長挨拶【都竹市長】

今年度第3回となる総合政策審議会にお集まりをいただき感謝申し上げます。

今回の総合政策審議会は、10月から続けてきた政策協議において来年度事業の主な項目案がまとまり

つつあり、その案について委員の皆様方から足らざるところ等をご指摘いただくことが主な趣旨となる。

この後予算編成に入っていくが、「入るを量りて出ざるを制す」を財政の方針としている。これは入ってくる財源を見定めて、その中でお金の使い方を決めていくというもの。この時期は政府の予算原案が出来上がる時期であり、そこで地方交付税などの地方財政対策において地方自治体の財政全体の枠組みが決まる。その中で、それぞれの自治体が予算編成をしていくことになるが、飛騨市の財政はこの地方交付税という自由に使える地方の固有財源の配分額に大きく頼っている。この配分の動向が大きなポイントになっており、来年度も概ね前年並みの見通しとなっているが、問題なのは昨今の電気代や燃料代の高騰で、支出額が令和3年度に比べて3億円ほど増加する見込みであること。これまで市は借金の返済を一生懸命続けてきたため、令和5年度は財源として今年度よりも1億円ほど余力が出てくるが、電気代の3億円の増加により令和5年度の予算編成はここ近年にない厳しい予算編成になることが予想される。また、ふるさと納税については堅調で、12月19日現在で前年同時期の額を4600万円上回っており、この活用方法も含め、非常に難しい予算編成となっている。従って、これから色々説明させていただき、議論もさせていただくが、財源の中に収めることが前提となるため、事業を見送るものや年度途中の補正予算に送って、そこで財源が出てきたら実施するといったものも出てくる可能性がある。令和4年度は議論した事業のほとんどが実施できたが、令和5年度はこうした厳しい状況にあるということをご承知いただいたうえで議論をお願いしたい。

次にコロナの状況について、12月に入り飛騨市内でも非常に感染者が増えており、先週1週間の合計が368人と過去に類を見ない感染者数で、人口当たりの感染者数は県内42市町村でワースト1位の数字となった。こうした感染者数の増加が現在飛騨地域北部から南のほうにも波及しつつあり、今後県内全体でも増えていく中で、医療体制のひっ迫がこの年末最も懸念される事項の一つだといえる。ただ、感染者の症状は重症の方が一定数いる中でも、鼻風邪程度で終わる方が非常に多く、全体的に軽くなっている印象があり、国全体としてこれをどう見るかということが問われている。感染症の分類を2類から5類へという議論もある中で、おそらく令和5年はコロナの扱いも変わり、社会経済活動が令和4年以上に通常ベースで動いていく年になると思われる。そうしたことも踏まえ、今回の政策は通常年度の考え方に立ち、財政的な制約はあるにしても、基本的には大きな制約はかからないという前提で編成をしているので、その点についてもご承知おき願う。

いずれにしても、物価や燃料代、電気代の高騰などにより非常に難しい経済状況の中での1年となるが、今回の予算編成のテーマである「持続可能な飛騨市づくり」という考え方の中で市政を前に進めていきたいと考えているので、委員の皆様には忌憚のない意見をいただくことをお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

### 3. 会長挨拶【会長】

令和4年度第3回目の総合政策審議会となるが、年末の忙しい中ご出席いただき感謝申し上げます。審議会の前に別の用事で飛騨市に訪れた際、地域の方に話を聞いたり意見交換をさせていただき、飛騨市のまちづくりに対する思いや前向きにいろんな活動をしようとしている様子を感じることができました。本日、委員の皆様には忌憚のない意見をたくさんいただくことをお願い申し上げ、私からの挨拶

とさせていただきます。

#### 4. 協議事項

司会【会長】

【会長】 協議事項①令和4年度11月臨時議会で予算議決済みの施策について事務局の説明を求める。

【土田補佐】 協議事項①について説明。(資料①)

【会長】 協議事項①について、ご意見ご質問をいただきたい。

【会長】 電気代などの物価や燃料の高騰への対策として、予算がないから対策を控えるということではなく、対策しなければならないときに、そこへ予算を充当して非常に丁寧な対応をしていただいていると感じた。

【会長】 協議事項②令和5年度予算主要事業の概要(案)について、事務局の説明を求める。

【土田補佐】 協議事項②について説明。(資料②)

【会長】 協議事項②について、ご意見ご質問をいただきたい。

【F委員】 産業全般の人材確保や多文化共生の推進に関して、在留資格「介護」の方は家族帯同で国内の滞在が可能であり、実際私の法人でも家族を連れてくるケースがあった。外国人材の家族は日本語や仕事のスキルなどの問題もあり、ある程度手を貸してあげないと仕事に就くことが難しい方も多いが、大事な人材であると思うので、多文化共生の観点も含め、活用を検討して欲しい。

【土田補佐】 外国人材の方はある程度日本語を勉強してから日本へ来られるが、その家族はそうした勉強をする機会がなく日本へ来られることもあるため、市としても令和5年度は、まず、そうした方々が気軽に日常会話から学んでいただけるような日本語教室などを進めていきたいと考えている。また、市内には1名県の多文化共生推進員として日本語教室や地域の方との交流に取り組まれている方がおられるが、こうした人材の育成についてもこの取り組みの持続性を持たせるうえで必須だと感じているので、人材の掘り起こしにも取り組んでいきたい。外国人材の家族の就労面については、市としても支援策を色々検討したが、法律の制約などもあり直接的な支援が難しい中、世帯まとめた支援など工夫しながら今後支援策を検討していきたいと考えている。

【B委員】 22ページのゼロカーボンの挑戦のところでは電気自動車の購入助成とあるが、市民が電気自動車を購入するのはまだ少し先のことだと思う。雪道を走るハードルの高さや走行距離の短さに加え、車両代も大変高い。20万円の助成でもありがたいが、希

望としてはPHVの購入についても多少助成があるといいと思う。また、あわせて電気自動車の充電可能な設備の充実も図っていただけるとありがたい。

**【横山部長】** 電気自動車については委員ご指摘のとおり、寒冷地等の制約がある中で都市部に比べて導入事例が少ないのが実態。近年は自動車生産メーカ各社で電気自動車の投入も増えており、車種も選べるようになってきたことや、航続距離も伸びてきた中で、電気自動車を一つの選択肢として買っていただくきっかけづくりにしたいと考えている。あわせて電気自動車の充電設備について、現在市内では市役所と道の駅の2ヶ所にあるが、国の方針では充電設備を大幅に増やしていく施策がとられており、その動向を見つつ、増設の検討もしていきたい。また、電気自動車の助成はゼロミッションのBVEで考えている。

**【B委員】** 電気自動車はまだ発展過程の段階だと思うので、ぜひPHVの助成の検討もお願いする。

**【会長】** 市役所の公用車の状況はどうなっているのか。

**【谷尻部長】** 公用車の電気自動車は、普通自動車を1台と小さい1人乗り用のものを1台用意している。残りの車については長距離用のものはハイブリッドであったり、軽自動車や災害対応も可能な車高の高い車など幅広い車種を用意している。その中で環境性能のいい車を積極的に導入していきたいと考えている。

**【H委員】** 20ページの地域コミュニティ活動の維持のところ、新規で草刈りやコミュニティ活動の保険の支援を設けていただき感謝申し上げます。単年度で終わるのではなく継続的な支援のお願いと、地域内の高齢化もどんどん進んでいくので今後、草刈りの助成の拡充もお願いしたい。

**【都竹市長】** 草刈りの問題は、地域に行って話をすると必ず話題が出るくらい要望が多い。しかもそうした話が年々強まってきており、今後時間が経過していく中でより大きな問題になっていくと感じている。政策協議の中で草刈り会社のようなものを作ってそこに請け負ってもらおうといったことや、建設会社などに委託するなど色々考えたが、草刈り業務を受けられる人や企業が少なくなっているといった問題もあり、一発で解決できるようなものではないと思っている。しかし、地域住民主体で地域の草刈りをやることに限界が来るのは目に見えており、ボランティアでやってくださる方の組織化みたいなことも考えていくなど、少しずつ長い時間をかけて調整しながら進んでいくしかないというのが今の思い。草刈り問題は過疎地ならではのテーマだと思うが、令和5年度予算ではできるところから始めていきたいと思っている。

**【会長】** 私も種蔵で草刈りの手伝いをしてきたが、地元の方のほかに外からのボランティアの方にもご協力をいただいた。地元のボランティアだけではなかなか難しく、ファ

ンクラブやヒダスケなど関係人口の仕組みを活用して何かできるといいと感じた。

**【A委員】** 15 ページの平和な社会への貢献について、平和都市宣言を出すことを検討し、動き出すということだと思うが、飛騨市は比較的コンパクトなまちで市民に寄り添った事業が多い中、大きなテーマに取り組みられるのだと思い、このカテゴリーだけ唐突に感じた。この事業に取り組む経緯や目的を伺いたい。

**【都竹市長】** 委員のおっしゃるとおり平和という世界的なテーマに飛騨市が取り組むのは、これまで足元の課題に取り組んできた市政の中でも少し違った印象を持つと思う。政策を作っていく際は足元の課題の追求と同時に、これまで市政で取組めていなかった分野がないか点検をする。すると、国際的なものや、地域そのものには直接関係してこないが世の中の的には大きなテーマとなっているものはどうしても後に回ってしまう傾向があり、ようやくここに追い付いてきた。加えて令和4年度はロシアのウクライナ侵攻や北朝鮮の頻回なミサイル発射など私たちがおかれている平和というのが決して永続的に保障されているものではなく、危ういものであると感じた年で、さらにそれが原油価格や物価の高騰など私たちの生活に直接影響が出ることも経験した中で、国際平和に目を向けるいい契機となった。そして観光や外国人材の確保についても、平和があってこそ成り立つものであるということも気づかされた。平和の取り組みは他の市町村の多くが実施しており、高山市も国際観光は平和があってこそということで力を入れてやっている中で、飛騨市も高山市のようにしっかり取り組んでいきたいという思いもあったことから、今回平和を一つのテーマとして掲げた。ただ、平和の問題はなにかの事業を予算を投じてやっていくというよりは平和を大事にする意識を持っていただくことであり、特に子どもたちに対して平和の思いを育てていくことが大事だと思っているので、そうしたラインナップを挙げている。加えて、平和都市宣言の公布に向けた動きとして、高山市は平和都市宣言の公布にあたり市民自ら条文を作りあげ、そのプロセス自体が平和意識の醸成につながるやり方をしており、そうした試みを飛騨市としても学んでいくような勉強会をしていきたいと考えている。いずれにしても、1年後には飛騨市は20周年を迎え、成熟したまちに成長、発展していく段階として身近な生活問題だけでなく、自治体としてこうした大きなテーマに取り組んでいく時期ではないかと思っている。

**【会長】** 国際社会に関わっていく中で平和の問題は非常に大切だと思う。多文化共生の分野であったり、産業面でも海外輸出していくうえで、平和について一緒に考えていくことは大切だと思うので、こうした取り組みを始めようとされていることは非常に評価したい。

**【C委員】** 19 ページの移住定住の促進について、空き家住宅の改修補助金の拡大とあるが、令和3年度の補助金の活用実績と補助額を150万円から300万円にした根拠があるの

か伺いたい。

- 【田中課長】 今手元に資料がないので正確には不明だが、令和3年度は3、4件ほど補助させていただいた。補助金額を増額した経緯としては、今の制度は2分の1補助で上限150万のため事業費ベースで300万が補助対象経費となっている中で、今は水回りの改修だけでも300万を優に超えてしまう。この制度の目的は空き家を改修して、賃貸につなげるところなので、次の方に魅力的に使ってもらえるよう改修するにはもう少し事業費をかけるべきとの声をいただいたことから、補助金額を増額を考えた。
- 【C委員】 補助額が倍増となり、かなりインパクトがある印象を受けた。何とか予算化していただきたい。
- 【E委員】 自分の住む地域では林道やスキー場の草刈りをしているが、ご高齢の方が多く若い世代が少ないので、これからも続けていくにはいろいろ問題があると感じている。また、除雪についてもこれまで自分たちでやっていた神社の雪下ろしも業者へ委託する話も出ていたり、高齢により除雪が難しくなってくる家も増えていくと思うので、そうしたところへの支援も検討いただけるとありがたい。
- 【土田補佐】 今年度の補正予算で雪下ろしに関する支援制度をいくつか設けさせていただき、その中で地域の方々が共同で地域内の住宅の雪下ろしを行った場合の支援として交付金を交付する取り組みもさせていただいた。あわせて、雪下ろしのパンフレットを作成し各家庭に回覧で注意喚起を行ったほか、雪下ろしの依頼が可能な業者のリストの一覧もそのパンフレットに挟んで周知を行った。雪下ろしに関する相談窓口も設けており、相談内容に応じて様々な支援につなげていきたいと考えている。
- 【会長】 新潟大学の先生が雪かき道場というものをやっている。ヒダスケのようなイメージ。道場という形で募集をして若者に集まってもらって、イベント的にやっているのだから参考までに共有させていただく。  
ヒダスケの受け入れ側に対するセミナーや講習はこれまでにやっているか。
- 【田中課長】 特に市内事業者向けにヒダスケの講習会をやったことはない。ただ、毎年ふるさと納税の事業者を集めて説明会を行っており、その時にヒダスケの具体の事例を紹介させていただいたことはある。
- 【都竹市長】 今回政策協議をしてきた中で、ヒダスケを活用した施策がいくつか議論として出てきた。ただ、地域での利用の仕方についてはまだあまり普及できていないことは確かにあるが、雪おろしや草刈りなどはどうしても危険が伴い、ヒダスケで募集するにしても事前の講習が必要になったりするのでそうしたことも踏まえながらヒダスケの上手な活用方法を研究していきたい。

【会長】 私も種蔵で学生たちに草刈り機使わせるのに、フェイスガードやプロテクターなどの防具を揃えた。慣れていないと、けがの危険もあるので安全とセットで考える必要がある。

～ 休憩 ～

【会長】 会議を再開し、ここで委員の皆様から市に取り組んでほしい分野、事業、課題など、普段の生活でお困りのことも含め、会の代表のお立場でも一個人としても結構でするので、お一人ずつご意見を頂戴したい。

【A委員】 コロナでこれまであまり動けなかったところが、動き始めてきた印象がある。この2、3年で状況も大きく変わり、大人数で集まれなかったことなどによりまちづくりのコミュニティも細分化した。コロナの前はみんなで集まってまちのことを語ったりしていた場がなくなり、離れてしまった方々に改めてどう関わってもらうかが難しいと感じている。まちづくり活動は最初に一步踏み出すハードルがあり、面倒に思う方もいるが、関わってみたら楽しかったということもあるので、今市全体が動き始めた中で、この先の飛騨市のまちづくりをどうしていくか改めて考えていけないといけないタイミングではないかと思っている。

飛騨市の広報について、ここ数年すごく力が入っていると感じており、実際いろんな情報が見えるようになった。特にフェイスブックなどでまちの話題の情報が高頻度で上がっており、市の話作りにもつながるいい取り組みだと思う。一つ提案として、回覧の情報が市のLINEで通知が来るが、市のホームページを見に行くとPDFのリンクが表示されている。可能ならリンクに飛ぶ前にどんな情報なのか分かるように表紙の画像などが表示されているといい。

小さなまちづくり応援事業について、令和4年度に大きくリニューアルしたが、なかなかうまく回せなかったところがあるので、令和5年度はみんなが使いやすくなるようなものをご検討いただけるとありがたい。

【B委員】 14ページの誰1人取り残さないまちづくりということで、ダイバーシティ・インクルーシブの推進は大変良い試みだと思った。コロナの前は学校として老人ホームなどへ行き、吹奏楽の演奏や合唱部の合唱、独居老人へのお手紙、折り鶴などの取り組みを行ってきたが、あまり深みが出ず終わってしまっていた。民生委員や社会福祉協議会の方にも入っていただき、生徒と語る場を持てるといい。行政でコーディネートしていただけるとありがたい。

平和な社会への貢献ということで、これも飛騨市の取り組みとしては新鮮でいいと思う。長崎への中学生派遣事業を一つのきっかけに中高生の平和教育の機会を増やして欲しい。

19ページに移住定住の促進とあるが、学校教育の観点から一つ提案として、山村留

学のようなイメージで夏休みなどの長期休暇期間に外から子ども達を呼んでみることは考えられないか。関係人口にもつながるので検討いただければと思う。

**【C委員】**

空家賃貸住宅改修補助金の拡大について、空家物件を購入される条件としては、運用利回りが非常に大事だと思っており、一般的には不動産賃貸運用利回りの基準は1割と言われている。150万円から300万に補助費用の上限が増額されることで、空家の改修にお金をかけられ、投資するにも魅力のある物件になると思われる。さらに資材の高騰もある中、地元企業も潤う非常にいい取り組みだと思うので、ぜひ実施いただきたい。

令和4年12月9日から11日の飛騨市まるごと大売出しでさるぼぼコインを活用いただき非常に多く利用いただいた。加盟店の話を開くと大売出し期間の売り上げの6割はさるぼぼコインだったが、残りは現金やクレジットなど別の売り上げで相乗効果もあったという話も聞いた。また、自分たちで20%引きキャンペーンをやってもお客さんの反応は薄い、市のキャンペーンだとお客さんもいっぱい来てくれるという店もあった。現在行われている外食キャンペーンについても、今までさるぼぼコインを導入していなかったお店でもお客さんからの要望により導入するケースも出てきており、非常に大きな反響をいただいている。市民の方も期待している事業なので今後もぜひやっていただきたい。

**【D委員】**

令和5年度予算で防災士による避難所運営等の出動手当の支給を予算化いただき感謝申し上げる。11月13日に防災士会の総会を開き、各町に支部組織を置くことを承認いただいた。今後各町で説明会を行い、意見を伺っていく予定であり、多くの方に協力いただきたいと思っているが、どれくらいの方に協力いただけるかまだ不透明。詳細が決まってくるまでもう少しお待ちいただきたい。

空家の管理について、自分たちの区にも持ち主が施設に入っておられ、雪下ろしなど管理する人がいない空家がある。雪で庇が折れ、屋根も曲がっている状況で、今後どのように対応したらよいか伺いたい。

**【E委員】**

今はなくなっているが、河合町にも通学路のすぐそばに今にも壊れそうな空家がずっと放置されており、心配に思っていた。他にもそういった空家が何軒かあるので、市として対応が難しい問題であるかと思うが、子どもが安全に暮らせることは大事な部分だと思うので、ご対応いただけるとありがたい。また、公園の遊具などもボロボロになって遊べない状態のものがあるという話も聞いたので、あわせてお願いしたい。

山之村の方から聞いた話で、山之村診療所がいつ開設しているのか分からず困っており、開設する日をお知らせいただきたいとのことだった。

気づいた点などいろいろお話しさせていただいたが、高山市の人と話したときに飛騨市はコロナの対応も早し、飛騨市に住みたいといった話もよく聞くので、飛騨

市に住んで働かせてもらっていることがありがたい。先ほどお話したような子どもの安全面なども気にしていただきながら施策を進めていただければと思っている。

**【F委員】**

今回第3弾となる物価高騰の緊急対策においても福祉の分野に様々なご支援をいただき感謝申し上げます。現在市内でも陽性者が増えていることで、職員の子どもが感染し、濃厚接触や職員自身の感染により出勤できなくなるケースが頻回にあった。法人の運営にあたっては予断を許さない状態であり、その中で職員には感染が広がらないようすごく気を遣っていただいております、職員の頑張りに支えられている。介護保険等について、団塊世代が後期高齢者となる2025年問題や2040年問題を間近に控え、介護人材の不足が問題視されている中で、神岡の状況としても高齢者の人口は変わらず、全体の人口が減っているが、介護サービスが必要ない元気な高齢者も増えている。介護保険制度が創設されてから22年が経過し、介護報酬も抑えられてきている中で、ニーズに合ったサービスを考えて提供していかないと、持続可能という意味でも生き残っていけないと考えている。現在の第8期介護保険事業計画の中で、今後1～2年で介護保険制度も大きく変わると聞いている。そうした中で第9期の計画を作っていくことになると思うが、どんなサービスがどれだけ必要なのかといったことなどを考え、お手伝いをさせていただきながら飛騨市としてより良いサービスとなっていくよう努めていきたいと思っているので、またご協力をお願い申し上げます。

公共施設には車いすが配備してあるが、それ以外にシルバーカーも設置したらどうか。特に神岡振興事務所は入り口から窓口までの距離が長く、車いすを使うほどではない方で、ちょっとした補助があると歩きやすい方に、気軽に使ってもらえるものがあるといいと自分の母を見て感じたので、ご検討いただければと思う。

**【G委員】**

次世代を担う子どもたちへの教育について、地域の社会人を講師として活用いただき、地域交流も兼ねて学ぶ形はいい取り組みだと感じた。また、飛騨市は4町それぞれが少し離れているので飛騨市民としての意識を持ってもらう意味で社会見学などを通じて自分の住む町以外も知ってもらえるような取り組みがあるといい。

C委員からも話があったが、まるごと大売出しなど地域の購買意欲を高め、地域の商業を活性化する取り組みはとてもありがたい。今後もプレミアム商品券などを活用し、地域にお金を落としてもらえるような取り組みをお願いしたい。

令和5年度も飛騨市では非常に多くの政策を練っていただいております、市民のために一生懸命やっただけだと感じた。本庁職員のほか振興事務所なども含め、職員一人一人がこうした意識を持って仕事に取り組んでもらえるよう周知徹底をお願いしたい。

**【H委員】**

国府町との境近くの用水路に流木やプラスチックごみ、空瓶などが漂って分岐点に詰まるということが多々ある。地域の方が用水路からごみを上げて干し、分別して

捨ててくださっているが、そのままゴミが下流に流れてしまったり、暗渠の中で詰まって水が溢れてしまうこともある。月に一回でもいいので用水路のごみを回収いただけるようなシステムを構築していただけないか。この用水路が詰まってしまうと火災の時に水が出なかったり、雪も流せなかったりするのでは、ご検討いただけるとありがたい。

物価高騰等の緊急対策で実施していただいた高齢者に温浴施設のフリーパス券を配布する取り組みが好評だと聞いている。ただ、一部の方から温浴施設に行くための足がないという声も聞くので、その点についても対策を講じていただけるとありがたい。

この3年間コロナにより地域の親睦を図る行事ができない状況であった。コロナがインフルエンザ並みの扱いとなりコロナ前の状況になった場合に、以前のように行事やイベントができるかが心配。市としてどのような対策をしながら行事やイベントを実施したらよいか方向性を示していただけるとありがたい。

**【会長】** 市長からご意見を伺う。

**【都竹市長】** A委員からのお話で、鎌田委員の話とも共通するが、これまで止まっていたまちづくり活動やコミュニティ活動をまた動かしていくには2～3年かかると思っている。いずれは戻ってくると思うが、社会の経済活動が動き始めた当初が一番難しいと思っている。これからの感染対策というものがどうあるべきなのかをしっかりと伝えていながら進めていきたい。

広報について、回覧を見逃しても市のホームページで見られるよう、回覧資料をPDFにして掲載している。確かにPDFのリンクだけでは分かりにくいということもあるので、表紙だけ画像を張るなど、どういうやり方がいいか検討する。

小さなまちづくり応援事業について、この事業は色々と試行錯誤しながら今に至っており、繰り返しやってきた中でマンネリ化してきた部分もあることや、「まちづくり」という言葉がかえって補助を受けるハードルを高めている部分もあるということから、まちの元気応援事業として模様替えをしたいと思っている。方向性は変わらず、市民の方々のいろんな活動をより手軽に応援できるようなものとし、最後に成果を皆さんに発表できるように手法を工夫しながら進めていきたい。

B委員のお話で、子ども達が一人暮らしの高齢者などいろいろな困難を抱える方と接点を持つことは非常に重要だと思う。どうやって接点をとるのが問題であるが、市でも民生委員や老人ホームなどの施設の方とつなぐことは可能であり、ほかにも様々な手法があると思うので、研究しながら子供たちが学校教育の中で高齢者の思いを聞ける機会の創出を検討したい。

平和の話について、基本的には継続的に平和に対する啓発活動を続けていくことが重要だと思っているので、市としても長崎への派遣だけでなく、いろんな講演会や

講座も考えていきたいと思っている。こうした部分も学校と連動させながら児童生徒に直接関わってもらったりすることもあるかと思うので、いろんな形を考えながら取り組みを進めていきたい。

農山村留学について、これもやってみたいことの一つ。現段階ではまだ十分に勉強できていないが、山之村や宮川、河合などの小規模な地域に都市部から一定期間あるいは短期間来て滞在してもらうにはどういうやり方があるのか、全国のいろんな事例を見ながら研究したいと思っている。

C委員のお話で、空家の運用利回りのことを伺い、確かに空家を賃貸する側の運用の際の考え方を知ったうえで補助額を設定するかが大事であると感じた。市としても色々勉強し、普及啓発のやり方などを考えたい。また、自分が持っている空家を賃貸に出すと何がどうなるのか知ってもらうことで、空家を賃貸物件として出してくださる方が出てくるのではないかと思ったので、空家をお持ちの方で賃貸活用したい方向けのページの作成やセミナーなども考えてみたい。

まるごと大売出しの話で、今回の大売出しは3日間だったにも関わらずこれまでの5日間実施した時と同程度の金額の実績となっており、市民の方も使い方に慣れてきた印象がある。プレミアム商品券だと普段行くスーパーで使われるのが多いが、この大売出しでは業種がばらけて使われており、とてもいいやり方だと思っているのでこの取り組みは何らかの形で継続したい気持ちはある。ただ、この事業はコロナによる経済対策の交付金を活用しており、プレミアム分だけでも1回あたり約2,000万円の予算がかかるため、この金額を市の一般財源で出すことはかなり難しいが、市内の経済支援策としてはかなり有効な手段だと思っているので、財源などを工夫しながらできる方法を考えたい。

D委員のお話で、令和5年度に防災士会の支部組織が発足するにあたり、市も一緒になって連携しながら取り組んでいきたいと思っているので引き続きお願い申し上げます。

空家の管理については、まず固定資産税の納税通知書に空家に関する情報を同封するなどいろんな形で呼びかけを行っていき、空家になるのを未然に防ぐ意識を持ってもらいたいと思っている。危険度の高い空家については様々な対処ができるよう積極的に特定空家に認定していく方針であるが、認定のハードルが高いのが問題であることから、特定空家になる前でも危険性の高い空家はいろんな勧告や対処ができるよう条例を改正したところである。今後区長さんなどを通じて様々な情報を市に挙げていただき、個別に状況を見ながら対応していきたいと思っている。

E委員のお話で、河合もいくつか特定空き家に認定したものがあり、手順を追って対処することになるが、所有者がわかっているもので本人が自分で何とかしたいという話になるとなかなか次に進めないところが空家の難しいところ。そのため、令

和4年度に空家の解体を支援する制度を作ったところ多数の申請をいただき、予算を超えてしまったため途中で申請を止めて、令和5年度のを少し先送りする形で令和4年度の予算を追加することを行った。空家の管理も取り壊すことを一つの方法として周知していく。

公園の遊具について、危険なものは随時リニューアルするなど対処していくのでお気づきの点があればお伝えいただきたい。

山之村診療所について、開設時間が周知されていないことはあまり認識がなかったので、早速調べて山之村の方に情報が伝わるよう対処する。

F委員のお話で、コロナの対応で福祉の現場は非常に大変だろうと思う。施設間の応援体制の発動など、今後も施設内で感染が広まった場合など、現場が大変な時はできる限り対処していくので市民福祉部にも随時情報等をお寄せいただきたい。

介護保険の話で、確かに定年延長の流れや人材不足の影響で70歳を超えても働き手としての需要が高まっており、元気な高齢者には60歳を過ぎても長く働いてもらうことは大事なことだと私自身思っている。いきいき券の配布年齢を数年前に65歳から70歳に引き上げた時には一部反対もあったが、65歳はまだまだ動ける年代で時代の流れとしてもさらに引き上げになっていくだろうと考えており、介護の現場でも状況の見直しが必要だということはおっしゃる通りだと思う。次の介護保険事業計画を考えていくうえでも高齢者支援・生活サービスの在り方はしっかり議論していく必要があると思っているので、先ほどお話しいただいた視点も参考にさせていただきながら進めていきたい。

公共施設の歩行補助具について、お話を聞いて確かに神岡振興事務所の入り口から窓口までは距離があり、歩くのに苦勞される方がおられることはおっしゃる通りだと思った。これも大事な視点であるので、どういったやり方がいいのか色々研究したい。

G委員のお話で、飛騨市は令和6年に合併して20年を迎えるので今の子どもたちは生まれた時から飛騨市民であり、飛騨市への思いを強く持っている。飛騨市学園構想の中で地域学校協同活動を通じて地元に対する学びは深まっているが、さらに広く飛騨市全体を見渡してもらうことも大事だと思っている。現在、ふるさとこども大使という取り組みで市内の各町を見て回ったりしているのでその機会を増やしたり、学校間交流の機会を増やすなど、自分の住む地域以外にも関心を持ってもらえるようなこともどんどんやっていきたい。

まるごと売り出しについては、先ほど申し上げたとおり、財源を見つけながら継続できる方法を模索したいと考えている。

市民に対する接遇のお話で、市の窓口は様々なところに相当な数あるなかで、厳しいお声をいただくこともある。これは何か講習などをやって終わりということではなく継続的に職員一人の意識してもらうことが大事だと思っているので、引き続き

職員の意識啓発に努めていく。

H委員のお話で、用水路に詰まった流木や草を回収するシステムはこれまであまり考えたことがなかった。さっそく調べてどういうやり方があるか研究したい。これに限らず、高齢化によりできなくなっている共助の活動が色々ある。そうするとどこまで市がやって、どこまでを市民の皆さんにお任せするのか考えていく必要があり、一発解決の回答はない中でも引き続き色々と検討していきたい。

温浴施設への足については、今まである程度特定の方に限られていたこともあり、問題としてクローズアップされてこなかった。確かにどうやって行くかの問題はあるので、利用者の数とバランスを見ながら路線の見直しも検討したいと思うが、なかなか難しい部分もあり、バスを出すという回答をすぐにはできない。今回は経済対策として3月末までを入浴フリーパスの期限としておりこの期限が切れた後に市民の方々がどういった行動をとられるかが公共交通を決める重要なポイントとなるので、そうした中で数字も見ながら検討したい。

コロナ後の行事について、ここ3年間行事ができずこの後どうやって戻していくかは大きなテーマとなる。春以降になると思うが、行事の開催の仕方についてはその時の状況を踏まえて、専門家の意見を伺いながらその都度情報発信をしていきたいと思う。そして、社会活動、まちづくり活動も含めた地域活動を戻していくための方法についても、許容範囲や何を意識するかなどしっかりとアナウンスしていきたい。

**【沖畑教育長】** G委員のお話で、地域の方を講師に迎えた教育は今市内の学校で盛んにおこなわれており、たくさんの地域の方にも参加いただいている。

B委員のお話で、学校でやったことをさらに深めていくことは、現在総合的な学習を中心にここ1、2年で急激に進み、様々なところと連携している。例として、令和4年11月に古川中学校が防災教育で文部科学大臣賞をいただいた。一番評価されたのは防災士会、市の危機管理課、民間企業、学校が連携して教育のプログラムを実施したところで、子どもたちの防災意識がすごく高まった。こうした取り組みをほかの分野でも進めていきたいと考えている。福祉の面でもご提案いただいた取り組みができればと思っているのと、平和についても市の取組と学校をつなげていきたい。また、中学生で防災士の資格を取っている子もおり、避難所開設にあたってぜひ一緒にやりたいと思っているので、またご相談させていただきたい。

**【会長】** 私も学校と地域の連携の部分でたくさんの意見をいただいた印象がある。飛騨市学園都市構想がかなり充実しており、期待が高まる部分だと思っているが、高校の情報が入ってこないのが少し気になっている。高校は県立なので市として触れにくい部分もあるかと思うが、学園構想の中には高校も入っているのでさらに充実していけるとよいと思う。

防災士については、県内だと恵那市が非常に進んでおり、中学生が地域防災の担い手になる形で避難所運営をやっていたりするので、参考までにお伝えする。また、内閣府で避難所運営の支援サポート研修事業を実施しているが、なかなか手を挙げる自治体がないと聞いたので、ご検討いただければと思う。

まちづくりの話で、これから活動をどう戻していくかは丁寧に寄り添ってやっていくしかないと思っているが、飛騨市にはまちづくり拠点もあるのでまちづくり活動を盛り上げていってほしいと思う。本日も委員の皆様にはたくさんのご意見をいただき感謝申し上げます。それでは、協議事項は以上となる。司会を事務局にお返しする。

## 6. その他

今後のスケジュールについて説明

## 7. 閉会【湯之下副市長】

本日も委員の皆様には、長時間にわたって、貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

皆様にいただくご意見は非常に示唆に富んでおり、それをきっかけに新たな政策を打っていかれたらと思っているので今後ともよろしくご意見申し上げます。

それでは本日の会議を終了する。ありがとうございました。